

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	より広い視点で意見が得られること、認知症の人について周知してもらうことなどを目的として、今後も柔軟なメンバー構成が望まれる(例:地域の役員・小学校の校長・地域包括支援センターの職員)	近隣住民との繋がりや災害時の協力体制を確立する。	議題に合わせた関係者の出席をお願いし、運営推進会議を報告の会に終わることなく、グループホームあかさきのサービスの質が向上するよう取り組む。近隣の方にも運営推進会議に参加をお願いし、関係作りを行うと共に災害時の相互の協力体制を築く。地域の消防団との消防訓練の実施。	12ヶ月
2	35	法人内の人力で完結してしまう事にとどまらず、役場の消防団など地域住民の訓練参加へのはたらきかけが望まれる。多くの視点から良いアドバイスを得て、より安全な避難方法を確立されたい。			
3	33	終末期のあり方については気持ちの変化が伴うものであるため、入居時だけでなく、日々の中で利用者・家族とともに死生観を含め、最期の過ごし方を話し合える関係作りができればよいのではないかと考えます。	終末期における意思の確認が出来る	面会時・状態変化時の生活の報告を通して、信頼関係の構築。要介護認定更新の機会等を捉え、今後の生活を改めて確認していく。ターミナル期においての、当ホームでの関わりの明確化(書面)し、家族と共に確認する事で、より具体的な過ごし方の選択をして頂く。	12ヶ月
4	2	地域密着型サービスとして、グループホームの周知をさらにはかるために、地域への地道な働きかけが望まれる。	地域活動への積極的参加・ボランティアの受け入れ	広報誌・地域住民からの情報収集により、地域の行事への参加。母体施設の夏祭りを通して交流を図る。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。